審査意見への対応を記載した書類（6 月）

（目次）

畜産学研究科　畜産科学専攻（M・D）

1. 専攻、コース（特に畜産衛生学位プログラム）と学位の関係性について、説明すること。【２専攻共通】（要望意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

2. 各コースの受け入れ枠について入試方法も含めて説明すること。【２専攻共通】（要望意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

3. シラバス P25、26、P148～149 の海外演習科目について、評価方法がわかりにくいため明確にすること。【２専攻共通】（要望意見）・・・・・・・・・・・５

4. 岩手大学大学院連合農学研究科の構成大学でなくなったことによる指導教員の体制、講義への影響について、具体的に説明すること。　（要望意見）・・・７

5. 畜産学衛生学位プログラムについて、カリキュラムコースの性格が強いため、名称について検討すること。　（要望意見）・・・・・・・・・・・・・・・・・８

畜産学研究科　獣医学専攻（D）

上記の１～３と共通のため省略

（要望意見）畜産学研究科　畜産科学専攻（M・D）　／　獣医学専攻（D）

1．専攻、コース（特に畜産衛生学位プログラム）と学位の関係性について、説明すること。【２専攻共通】

（対応）

設置の趣旨を記載した書類に専攻・コース及び畜産衛生学位プログラムと学位の関係性を追記した。具体的には、畜産科学専攻の学生は、所属するコースに関わらず、畜産衛生学の学位を希望し、学位プログラムの履修要件を満たした場合、その専門性により、農学あるいは動物医科学の学位に代わって畜産衛生学の学位が付与されるという主旨である。

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（９ページ）

新	旧
本プログラムは，農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため，本学がこれまで畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、所属するカリキュラムコースに限定されることなく上記①及び②の全ての学生が履修可能な学位プログラムとして発展させるものである。	本プログラムは，農作物・食品等の国境を越えた流通拡大を背景として企業等に求められている国際安全衛生基準の取得・維持に対応できる人材を育成するため，本学がこれまで畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、上記①～③の全ての学生が履修可能な学位プログラムとして発展させるものである。

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（20-21 ページ）

新	旧
学位取得のためには，前期課程においては，専攻の必修科目に加えて，プログラム必修科目４単位，プログラム選択科目から４単位以上修得することが必要である。必修科目である「畜産衛生学特論」と「食品衛生・有害物質特論」によって，幅広い畜産学及び食品衛生学に基づく現場の衛生管理の知識や，食品に関連する毒性物質の危険性を理解し，安全性を評価するための基礎的な能力を修得し，その上で，HACCP 資格科目群（「HACCP システム構築演習」，「品質検査学特論」，「食品関連法規・食品製造加工施設保全特論」）ないし６次産業化科目群（「食品流通・地域産業活性化特論」，「企業戦略特論」）によって，食品製造・加工現場や企業経営・管理に求められる法規や HACCP 等の諸制度の知識・技術を修得する。これらの畜産衛生に係る知識・技術を基に，食品衛生環境，生産工程及び物流形態等の各分野に関する修士論文ないし課題研究を提出	博士前期課程における畜産衛生学位プログラム履修者は，前期課程の共通必修科目，共通選択科目を履修の上，プログラム必修科目・選択必修科目・畜産衛生課題研究（企業等研修）ないし所属コースの特別研究Ⅱを履修する。博士後期課程における履修者は，共通必修科目，共通選択科目を履修の上，プログラム必修科目・選択科目を履修する。

することにより，その専門性に相応しい「修士（畜産衛生学）」の学位を付与する。なお，プログラムの履修登録から学位判定までの流れは以下のとおりである。また，後期課程においては，専攻の必修科目に加えて，プログラム必修科目１単位，プログラム選択科目か６単位以上修得することが必要である。必修科目である「獣医・農畜産学特別講義」によって，獣医・農畜産融合の視点から分野横断的に獣医学，農畜産学及びその学際分野の先端的知識を修得するとともに，「食品安全マネージメント・内部監査演習」，「家畜衛生学特論」等の選択科目によって，国際基準に応じた食品安全マネジメントシステムの運用管理の検証を可能とする知識・技術や家畜の生産現場における疾病問題や国内外で異なる飼養管理システムとその衛生管理に係る現状の問題を把握し，課題解決を図るための力を修得する。これらの畜産衛生に係る知識・技術を基に，食品衛生環境，生産工程及び物流形態等の各分野に関する博士論文を提出することにより，その専門性に相応しい「博士（畜産衛生学）」の学位を付与する。なお，獣医学専攻（博士課程）においては，本プログラムにより「博士（畜産衛生学）」の学位修得は不可能であるが，本プログラムの科目については，選択科目として履修可能である。	

（要望意見）畜産学研究科　畜産科学専攻（M・D）　/　獣医学専攻（D）

2. 各コースの受け入れ枠について入試方法も含めて説明すること。【２専攻共通】

（対応）
設置の趣旨を記載した書類に各コースの受け入れ枠について過去２年の配属傾向を分析し、項目を新設して記載した。

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（31-32 ページ）

新	旧
（３）入学定員と学生の分属 ①畜産科学専攻（博士前期課程） 本課程の入学定員は 48 名である。学生は入学後に動物医科学，家畜生産科学，環境生態学，食品科学，農業経済学，農業環境工学，植物生産科学のいずれかのコースに分属されるが，そのコースは学生が師事する主指導教員の担当コースによって決定される。なお，特別な事情がない限り，出願者が当該教員の同意を得て出願書類に記載した教員が主指導教員となる。 各コースの受入れには特に定員を設けないが，畜産学部畜産科学課程の 6 つのユニットと相関する家畜生産科学，環境生態学，食品科学，農業経済学，農業環境工学，植物生産科学の 6 コースについては，ユニット定員の比率と同程度の受入れ数を見込んでいる。一方，動物医科学コースは学部に基盤組織のないコースであるが，従来の畜産衛生学専攻（博士前期課程）の平成 27 年及び平成 28 年の入学者のうち，獣医学系の教員に師事した学生は 12 名で，年平均 6 名であった。このことから，各コースの受入学生数は，動物医科学 6 名，家畜生産科学 10 名，環境生態学 6 名，食品科学 10 名，農業経済学 5 名，農業環境工学 5 名，植物生産科学 6 名程度と見込んでいる。 なお，畜産衛生学位プログラムについては入学後に履修選択する学位プログラムであるが，学生アンケートにおいて「興味がある」と回答した学生の割合が 11.8%であった（資料１－１）ことから，5～6 名程度の履修者を見込んでいる。 ②畜産科学専攻（博士後期課程）及び③獣医学専攻（博士課程）	（追加）

畜産科学専攻（博士後期課程）の入学定員は 10 名，獣医学専攻（博士課程）の入学定員は 5 名である。 なお，畜産科学専攻（博士後期課程）の畜産衛生学位プログラムについては，①と同様に入学後に履修選択する学位プログラムであるが，上述の「興味がある」とした学生の割合から，1～2 名程度の履修者を見込んでいる。	

（要望意見）畜産学研究科　畜産科学専攻（M・D）　/　獣医学専攻（D）

3. シラバス P25、26、P148～149 の海外演習科目について、評価方法がわかりにくいため明確にすること。【２専攻共通】

（対応）
「海外フィールドワークⅠ」、「海外フィールドワークⅡ」、「海外フィールドワーク演習」、「国内フィールドワーク演習」の４科目について、評価対象及び方法を明確にし、修正内容をシラバスに反映した。

（新旧対照表）シラバス「海外フィールドワークⅠ」

新	旧
授業計画（派遣期間：1ヶ月程度） 1.学内派遣前研修として、現地での研究活動に必要な知識･技術、英語やスペイン語等の現地で必要な語学能力、現地農業事情などの習得 2.短期派遣隊員として、短期派遣の目的達成に向けた活動計画の作成 3.現地活動、現地活動報告会 4.報告会での発表、活動報告書の作成 学生に対する評価 派遣前研修成果、活動計画書、同行教員による活動評価活動報告書、現地での活動報告会および帰国後の学内報告会でのプレゼンテーション、活動報告書から総合的に判定する。 評価の割合：派遣前研修・活動計画評価20%、活動評価 20%、報告評価 40%	授業計画（派遣期間：1ヶ月程度） 1.学内派遣前研修として、現地での研究活動に必要な知識･技術、英語やスペイン語等の現地で必要な語学能力、現地農業事情などの習得 2.短期派遣隊員として、短期派遣の目的達成に向けた活動計画の作成 3.現地活動、現地活動報告会 4.報告会での発表、報告書の作成 学生に対する評価 活動計画書、活動報告書、報告会でのプレゼンから総合的に判定する。

（新旧対照表）シラバス「海外フィールドワークⅡ」

新	旧
授業計画 派遣活動期間：2年間 １．派遣前研修（家畜飼養管理等の知識・技術、語学(スペイン語)、現地の酪農事情等） ２．JICA 要請書に基づく現地活動計画書の作成 ３．現地活動（4半期ごとに定期活動報告書を作成して JICA に提出） ４．活動成果報告書の作成、報告会（JICA 及び本学）におけるプレゼンテーション 学生に対する評価	授業計画 派遣活動期間：2年間 １．派遣前研修（家畜飼養管理等の知識・技術、語学(スペイン語)、現地の酪農事情等） ２．JICA 要請書に基づく現地活動計画書の作成 ３．現地活動 ４．活動成果報告書の作成、報告会（JICA 及び本学）におけるプレゼンテーション 学生に対する評価

派遣前研修成果、活動計画書、定期活動報告書（年４回）、現地での活動報告会および帰国後の報告会におけるプレゼンテーション、活動成果報告書から総合的に評価する。 評価の割合：派遣前研修・活動計画評価10%、活動評価 40%、報告評価 40%	活動計画書、活動報告書、報告会におけるプレゼンテーション内容から総合的に判断。また、派遣活動期間中の半年毎に JICA に提出する活動報告、JICA パラグアイ事務所の活動評価等を成績評価の参考とする。

（新旧対照表）シラバス「海外フィールドワーク演習」

新	旧
学生に対する評価 フィールドワーク計画書，レポートおよび受入先で指導を行った研究者からの評価報告書を元に受講者の取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容について評価し，それを参考として，フィールドワーク報告会におけるプレゼンテーションおよび最終成果報告書を総合的に判定して評価を行います。 評価の割合:フィールドワーク計画書 10%，レポート 10%，受入先の評価報告書 10%，フィールドワーク報告会 40%，最終成果報告書 30%	学生に対する評価 レポートおよび受入教員からの報告書を元に受講者の研究への取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容，成果発表におけるプレゼンテーション能力を総合して評価を行います。

（新旧対照表）シラバス「国内フィールドワーク演習」

新	旧
学生に対する評価 フィールドワーク計画書，レポートおよび受入先で指導を行った研究者からの評価報告書を元に受講者の取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容について評価し，それを参考として，フィールドワーク報告会におけるプレゼンテーションおよび最終成果報告書を総合的に判定して評価を行います。 評価の割合:フィールドワーク計画書 10%，レポート 10%，受入先の評価報告書 10%，フィールドワーク報告会 40%，最終成果報告書 30%	学生に対する評価 レポートおよび受入教員からの報告書を元に受講者の研究への取り組む姿勢や問題解決に向けた提言内容，成果発表におけるプレゼンテーション能力を総合して評価を行います。

（要望意見）畜産学研究科　畜産科学専攻（M・D）　/　獣医学専攻（D）

4. 岩手大学大学院連合農学研究科の構成大学でなくなったことによる指導教員の体制、講義への影響について、具体的に説明すること。

（対応）

設置の趣旨を記載した書類に、本学独自の研究科設置によっても指導教員体制や講義に影響があり、教育の質が低下することがない旨を追記した。

（新旧対照表）設置の趣旨を記載した書類（25 ページ）

新	旧
（２）履修指導・研究指導の方法 履修指導・研究指導方法の特徴の１つとして，上述のとおり各連合大学院と連携関係を維持する方針であることから，連合大学院構成大学に所属する教員が副指導教員や学位論文審査委員として就任可能な，指導体制や学位審査体制を構築している。 なお，畜産科学専攻（博士後期課程）及び獣医学専攻（博士課程）については，連合大学院からの離脱あるいは連合大学院のが解散に伴いして本学単独の博士課程となるが，「１．設置の趣旨及び必要性」で詳述したとおり，本改組は，本学独自の博士課程である畜産衛生学専攻の教育体制を融合して本学の強みを生かした新たな博士課程を組織するものであり，本学が目指す，獣医・農畜産融合の研究指導体制はより強化される。また，上述前述の連合大学院構成大学との連携により，より広い視点からの研究指導体制も可能なものとしている。	（２）履修指導・研究指導の方法 履修指導・研究指導方法の特徴の１つとして，上述のとおり各連合大学院と連携関係を維持する方針であることから，連合大学院構成大学に所属する教員が副指導教員や学位論文審査委員として就任可能な，指導体制や学位審査体制を構築している。

（要望意見）畜産学研究科　畜産科学専攻（M・D）　/　獣医学専攻（D）

5. 畜産学衛生学位プログラムについて、カリキュラムコースの性格が強いため、名称について検討すること。

（対応）

要望意見１に回答のとおり、今回の改組では本学がこれまで畜産衛生学専攻において実践してきた「食の安全確保」に関する高度な専門教育を、所属するカリキュラムコースに限定されることなく全ての学生が履修可能な学位プログラムとして発展させとともに、畜産衛生学分野の専門性を深めることで、畜産衛生学の学位を取得するためのプログラムであるため、名称は当初のとおり「畜産衛生学位プログラム」とする。